



## 本年度の結びに当たって ～なぜ学ぶのか？～

校長 井上 貴文

3月も半ばを迎え、だいぶ暖かくなりました。校内の花々が一齐に咲き、卒業・修了の日を待ちわびているかのようです。長い時間の流れの中に「始まり」と「終わり」を作ってきたことは人類の知恵の一つだといわれています。卒業式や修了式もその一つです。この大きな節目に自分を振り返ることはたいへん大切なことです。「今までの自分」と「今の自分」、そして、「これからの自分」についてしっかり考える年度末にしてほしいものだと思います。

一年間を振り返りますと、本年度も新型コロナウイルス感染症の影響に悩まされました。山あり谷あり、心から笑った充実した日々もありましたが、思うようにいかないこともあったことと思います。しかし、そういうときはポジティブに物事を考え工夫する知恵も学びました。100%の目標達成とはいかなかったかもしれませんが、子どもたちは授業や学校・PTA・地域での行事、体験活動等に精一杯取り組んできました。そして、家族や地域の方々に見守られながら成長してきた一年間でした。子どもたちのがんばり、そして、目を見張る成長に大きな拍手を送りたいと思います。

さて、改めて聞きたいと思います。「なぜ、わたしたちは学ぶのでしょうか？」

ある書物で次のような記述を目にしました。「自分の顔で目じりから耳の穴までどのくらい離れているのでしょうか？」というものでした。長年付き合ってきた自分の顔ですから知らないはずはないのですが、さて指何本分くらいでしょうか？子どもに尋ねると、指2本とか指3本などの答えが返ってきます。人の顔を絵にかく時は、目じりのすぐ近くにあるように耳をかきますが、実際はどのくらい離れているのでしょうか。なんと指5本を当てても手のひらの横の長さを当ててもまだ足りません。実際に目じりから耳の穴までを指で測ってみます。測った指の形をそのまま自分の両目に当ててみると、ちょうど両目の幅と同じくらいになることが分かります。ただ、そのことは眼鏡をかけている方はすでにお気づきのことだったのかもしれませんが。眼鏡をはずして折りたたむと両目のレンズの幅と耳にかける二つの部分とが同じ長さに収まることを日々経験しているからです。



子どもたちは、成長とともに多くのことを学習して、それらを自分の知識として蓄えていきます。その中に、自分の顔ですらそうであったように、本当は違うのにあたかもそうであったように「知っているつもり」になっている場合もあります。学ぶということは、知識を得ることだけでなく、「本当にそうなのか」と常に問いを持ち、追究し、よりよいものに更新していくという営みであり、そのことは、子どもたちの成長を支える大きな力となります。

「何のために学ぶのか？」そう問い続けることが大事です。6年生は間もなく卒業の日を迎えます。これから自分の進むべき道を自分自身で開拓していかねばなりません。これまで6年間の小学校生活で積み重ねてきた、短期的に目標を立てその目標に向かって努力するという経験が生きてきます。また、学びによって得た「知識」や「考え」が、子どもたちのこれからの生活をより豊かなものにしていくことでしょ



学ばば学ぶほど 何も知らないということが分かるようになる

何も知らないと分かるようになるほど もっと学びたくなる

—アインシュタイン—

最後に、この一年間、本校の教育活動に力強い御支援と御協力を賜りました保護者、地域の皆様に改めて厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

